

令和 3 年 6 月 22 日現在

機関番号：15401  
研究種目：奨励研究  
研究期間：2020～2020  
課題番号：20H00797  
研究課題名 SDGsが生徒会活動に与える変容の抽出

## 研究代表者

田中 伸也 (Tanaka, Shinya)

広島大学・附属福山高等学校・教諭

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 480,000円

研究成果の概要：現時点の生徒会主催各行事における意義を国連が定める国際目標であるSDGs(Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標))の目標に照らし合わせて問い直す過程で、生徒会活動の意義を改めて理解する。これまで認識することのできなかった潜在的カリキュラムの掘り起こす。自己肯定感を高める活動の積極性を高める、4つの効果が認められた。また、現象面において、SDGsの目標に触発され、これまでに行ったことのない活動(特に社会の関わりを見つめ直す活動)を企画運営・参加する例が増加した。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

生徒会活動は、生徒の生活の改善と向上、学校行事への協力を通じた校内への貢献のみならず、ボランティア活動など地域社会に貢献している。また、国連が定める国際目標であるSDGs(Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標))は持続可能な社会をつくるための開発目標である。教育が全てのSDGsの基礎ともみなされており、学校教育に強い期待がよせられているが、その有用性についての報告は少ない。本研究では、SDGsの有用性を具体的に報告し、その有用性の方向性として、社会とのかかわりを見つめ直す活動が活発化したことを示したことに社会的意義をもつ。

研究分野：教育

キーワード：SDGs 生徒会 価値創造 社会 教育 特別活動 高等学校 中学校

## 1. 研究の目的

特別活動の一種である生徒会活動は、生徒の生活の改善と向上、学校行事への協力を通じて校内への貢献のみならず、ボランティア活動など社会参加を通じて地域社会に貢献している、生徒の自律的・自主的集団活動の場である。社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、実践的に取り組むことを求めており、様々な生徒会活動が行われている。

また、SDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)) は持続可能な社会をつくるための開発目標である。教育が全ての SDGs の基礎ともみなされており、SDGs の観点から学校教育に強い期待がよせられている。

SDGs は協働における共通目標として有効だと考えられている。それゆえ、学校教育においても、SDGs を導入した教育活動が報告されているが、その有用性についての報告は少ない。加えて、教育活動の性質上、比較と達成度状況を測る指標や目標値が設定しづらく、変容の評価が中長期的になる傾向があり、SDGs の学びが社会問題と身近なものとして認識するに至ったところで、その問題解決に向けて具体的なアクションをとることができたのか、調べるのが難しい。

一方、生徒会活動は社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、実践的に取り組む例に事欠かないため、SDGs を導入した教育活動の評価モデルとして有効である。特に SDGs の目標は漠然と捉えがちな社会問題を明確にカテゴライズしているため、社会の見方・考え方の一例としてとても分かりやすく、生徒会活動との親和性が高い。SDGs が達成された豊かな社会を目指し、生徒活動のあらゆる面を SDGs のものさしで測り直し、活動評価や新たな価値創造の調査が可能だと考えられる。そのため、本研究では、特に、社会の形成者として実践的に取り組む様子が見やすい生徒会活動 特に学校行事において SDGs の深い理解がどのように生徒の活動や意識を変容させるのか、また、価値創造の表出を促進するのか、テキストマイニングなどの手法で質的・量的分析することを目的としている。

## 2. 研究成果

調査の結果、現時点の生徒会主催各行事における意義を SDGs の目標に照らし合わせて問い直す過程で、生徒会活動の意義を改めて理解する、これまで認識することのできなかつた潜在的カリキュラムの掘り起こす、自己肯定感を高める、活動の積極性を高める、4つの効果が認められた。また、現象面において、SDGs の目標に触発され、これまでに行ったことのない活動(特に社会の関わりを見つめ直す活動)を企画運営・参加する例が増加した。

具体的には周辺市町村の活性化に向けて地域資源の利用の在り方を専門家とともに学習する活動の参加、地域研修に積極的に参加することによりイノベーションの種を自らに得ようとする自己啓発活動、校内廃棄物のリサイクル利用の検討が生徒会のメンバーにより主導された。これらは、生徒会活動を SDGs の目標に照らし合わせる以前には見られにくかつた行動である。

また、これまでに漫然と行われてきた各種募金の使用用途を SDGs の目標と照らし合わせた結果、SDGs の 17 の目標のうち「1(貧困)2(飢餓)3(保健)4(教育)6(水・衛生)」に貢献可能であることが分かった。照らし合わせる活動において、上記 ~ の 4 つの効果が見られ、新たな募金活動の企画・運営・実施も行われた例もあった。

課題は、生徒会主催各行事における意義を SDGs の目標と照らし合わせて問い直す過程で、上記 ~ の 4 つの効果をどの程度強化したのか、その量的関係が比較しにくいことである。生徒会を主に構成する高等学校 2 年生の生徒は、学校内での体験活動が多いほど、積極性の高い傾向が分かっている（国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」報告書 平成 18 年度調査）。生徒会に所属する生徒はもともと学校内外での体験活動を多く行っているグループであり、積極性は高く、SDGs の目標と照らし合わせる行為が積極性にどの程度積極性に貢献し、ひいてはこれまでに行ったことがない活動を増加させたのかはわからない。また、今回の研究は単年度の例であり、経年変化を同様に調べた例ではない。今後、SDGs の目標に照らし合わせながら生徒会活動を問い直す過程を継続することにより、今回得られた結果が確からしいことなのか、その変容を知ることが求められる。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------